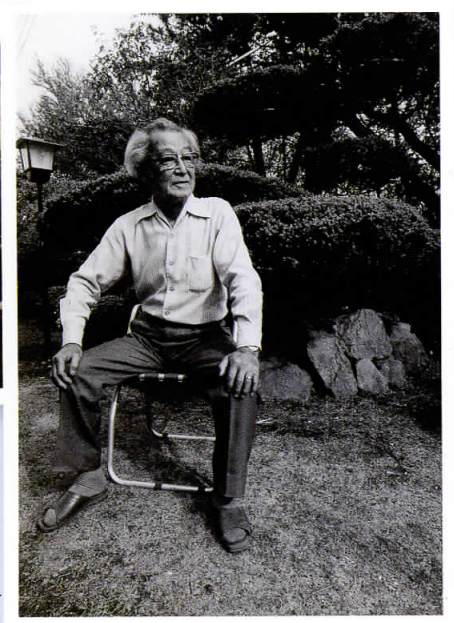


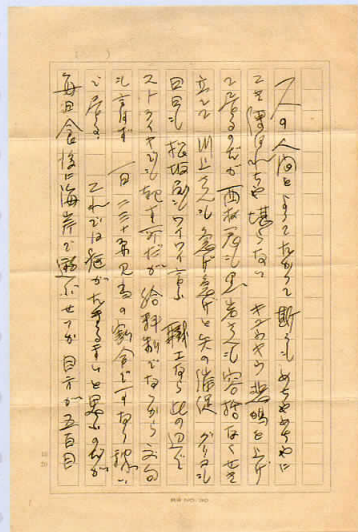


田河水泡と妻・高見澤潤子
荻窪の自宅にて 昭和11年



田河水泡
玉川学園の自宅庭にて
昭和50年頃

「一人の人間をよってたかって斯うもめちやめちやにこき使はれちや堪らない」
人気漫画家として仕事におわれている様子がうかがえる。



田河水泡 高見澤潤子あて書簡
発信年不明/個人蔵

漫画家・田河水泡(本名・高見澤仲太郎)は、明治32(1899)年、東京市本所区(現・東京都墨田区)に生まれました。生後間もなく母を、18歳で父を亡くしながらも、人情味溢れる下町で明るくのびのびと育ちました。前衛芸術家、落語作家を経て漫画家となり、32歳の頃、「少年倶楽部」昭和6(1931)年1月号に「のらくろ二等卒」を発表。身よりのない野良犬の「のらくろ」が、猛犬連隊に入営し、失敗をくり返しながらも機知とユーモアで様々な困難を乗り越えていくストーリーに、子どもだけでなく大人までもが夢中になり一世を風靡しました。軍国主義へと向かう時代の中で少年たちに笑いと希望を与えた「のらくろ」は、昭和16年に情報局から執筆禁止令を受けるまでのあしかけ11年、絶大な支持を得ました。田河の義兄・小林秀雄はその魅力について、「のん気な漫画」に流れている「一種の哀愁」に多くの人が動かされ親愛の情を抱いたのであろうと述べています。戦後の不遇な時期を経て昭和44年には『復刻版 のらくろ漫画全集』全10巻が刊行され、第2次「のらくろ」ブームが到来。70歳を迎えた田河は町田市玉川学園に移り、エッチングの制作や「滑稽」の研究にも打ち込み、亡くなるまでの20年間を過ごしました。

本展では、約100点の原画をはじめとする書簡や雑誌、書籍などの資料を展覧。どんな逆境にあっても人を信じ、童心を失わず、前向きに生きた田河の人生をひも解き、多くの少年を魅了し、戦後の漫画家に影響を及ぼした「のらくろ」の人気の秘密、作品に通底する「哀愁」の理由を探ります。

講演会

①『のらくろ』はなぜ今も面白いのか？

2月16日(土)午後2時～3時30分

講師：夏目房之介(漫画コラムニスト、学習院大学大学院教授)



②「田河水泡と小林秀雄」

3月17日(日)午後2時～3時30分

講師：渡邊正彦(玉川大学教授)



①②とも

会場：文学館2階 大会議室

対象：展覧会観覧者

(講演会当日に、展覧会チケットまたはチケットの半券をご提示ください)

定員：80名(申込順)

申込：町田市イベントダイヤル(☎042-724-5656)で1月11日(金)正午から受付

落語会「田河水泡の新作落語会」

2月17日(日)午後2時～3時

落語家：三笑亭夢吉、雷門花助

会場：文学館2階 大会議室

対象：展覧会観覧者

(落語会当日に、展覧会チケットまたはチケットの半券をご提示ください)

定員：80名(先着順)

申込不要



三笑亭夢吉



雷門花助

創作講座「4コマ漫画をつくろう！」

2月2日(土)午後2時～4時

講師：中垣ゆたか(イラストレーター)

会場：文学館2階 大会議室

対象：小学生～一般

定員：15名(申込順)

申込：文学館カウンターか電話(☎042-739-3420)で1月11日(金)午前9時から受付

